

07. 定刻になり、揺れながら会議続行

板野真紀子 49歳 会社員 台東区浅草在住

- どこに誰といましたか。

水道橋にある会社の社屋(鉄骨12階建)の2階にある会議室前で、15時からの会議が始まるのを椅子にかけて待っていました。揺れたときは傍の受付の机の下に入ろうとしたら、すでに2人入っていたのでうろろしました。15時になったので、会議が始まりました。男女8人の会議で、揺れている間も続け、17時半に終わりました。揺れているときに、ワンセグを持っている人がいて、宮城県の方で大きな地震があったらしいということはわかりました。

- どのように自宅に帰りましたか。

会議が終わってから7階にいる夫に内線で連絡をとり、18時ごろ歩いて帰るために一緒に会社を出ました。道路は帰宅する人の群れで混んでいました。途中、スーパーに寄って夕食を買いました。弁当は売り切れていましたが、他の食材はそろっていました。台東区の自宅には19時半ごろ着きました。近いところで何よりでした。

会社で歩いて帰らない人たちは、会社に泊まることになりました。泊まる人には、非常食や水が入っている防災袋が1個ずつ配られました。外へ飲みに出かけた人たちもいましたが、ほかの人たちはPCを使っていました。この人たちは、翌朝、電車が動いてから帰宅しましたが、まだ混雑していたそうです。

- 自宅では変わったことはありましたか。

自宅は、鉄筋5階建の3階です。とくに変わったことはなかったですが、ワイングラスが2個割れていました。オス犬が2匹いましたが、別に怖がった様子はありませんでした。雑種とブラッセル・グリフォンという種類です。いつも開けてあるドアは閉まり、戸棚は全部開いていました。

- 最後にひとこと。

会社には、スニーカーやジーンズなどを置いておくべきと思いました。まだです。

2011年6月18日